

今週（9月27日から10月1日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週を通して堅調な資金調達意欲が継続したものの、9月30日は四半期末要因により一時的にレートが低下した。無担保コールO/N物は、9月27日から29日までは邦銀の調達を中心に、▲0.055～▲0.001%近辺のレンジを中心に出会いが見られた。30日は、四半期末の影響で調達を見合わせる参加者が多かったことから水準が低下し、▲0.065～▲0.02%近辺の出会いが中心となった。10月1日は、ビッドサイドの参加者が復活した事に加えて週末要因も重なったため、再びレートが上昇し、▲0.045～▲0.001%のレンジで出会いが見られた。ターム物は、1～2W物を中心に▲0.010～▲0.001%近辺の水準で引き合いが見られた。日銀当座預金残高は、539～542兆円台で推移した。

●レポ市場

今週のGC T/Nは▲0.14～▲0.075%出会いと幅広いレンジで推移した。週初2日間は、T/Nが▲0.095～▲0.085%で出会いが見られた。期末越えの取引こそ▲0.14～▲0.105%出会いとレートが低下したものの、受け渡しが10月に入った30日以降はオファーサイド投資家の積極的な資金調達姿勢を受けて、▲0.085～▲0.075%出会いと、レートが上昇する展開となった。

SCについては、2y418～429、5y140～148、10y349～363、20y174～177、30y70～71、40y13～14 など、カレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、特段の材料もなく動意に乏しい中、出会いも散発的にとどまるなど、閑散なマーケットとなった。

28日に実施された短国買入オペは、前回と同額（1,000億円）のオファー額で実施され、弱めの結果となった。

1日に実施された3M物の入札は、年末越えの需要からやや強めの結果となった。前回の3M物からは、平均・按分レート共に上昇した。結果発表後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、四半期を跨ぐ末初の発行にあたり、複数の業態で大型発行があった。週間総額は償還超となっており、市場残高は9月末には21兆2,900億円程度に減少した。発行レートについては、概ねマイナスで決着している。大型銘柄は0%近辺で推移する一方、発行残高・頻度の少ない銘柄はマイナス圏で強いビッドが入っている。

27日にはCP等買入オペが5,000億円でオファーされた。入札結果は平均落札レート▲0.017%、按分レート▲0.022%と前回（平均▲0.013%・按分▲0.016%）比で平均・按分レートともに低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
9/27（月）	30,240.06	0.050	110.80	△ 0.024	△ 0.095	5,425,100
9/28（火）	30,183.96	0.070	111.03	△ 0.025	△ 0.095	5,429,200
9/29（水）	29,544.29	0.065	111.63	△ 0.025	△ 0.108	5,418,000
9/30（木）	29,452.66	0.065	111.91	△ 0.049	△ 0.082	5,416,700
10/1（金）	28,771.07	0.050	111.40	△ 0.018	△ 0.079	5,397,900

来週（10月4日から10月8日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/4 (月)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 9月のマネタリーベース(日銀 8:50)				8月の米製造業新規受注・出荷・在庫
10/5 (火)	TCFDサミット2021において黒田総裁講演 10月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 9月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	10Y 26,000億円 10/6発行	交付税借入 11,000億円 10/15借入		9月のISM 非製造業景況指数 8月の米貿易収支
10/6 (水)					
10/7 (木)	9月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 8月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M 34,500億円 10/11発行	流動性供給 5,000億円 10/8発行		8月の米消費者信用残高
10/8 (金)	8月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 8月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 8月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 8月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 9月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB3M 50,000億円 10/11発行	エネルギー 対策借入 6,500億円 10/20借入		8月の米卸売売上高 9月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/4 (月)	500	▲ 36,800	▲ 36,300	国債補完	200		200	▲ 36,100	消費税・法人税揚げ 年金保険料揚げ 社会保障 TB3M発行▲53000償還59300
10/5 (火)	0	▲ 2,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
10/6 (水)	0	▲ 24,000	▲ 24,000				0	▲ 24,000	恩給 10Y発行▲26000
10/7 (木)	0	5,000	5,000				0	5,000	
10/8 (金)	0	1,000	1,000				0	1,000	交付税借入▲11000期日11000
週間合計	500	▲ 56,800	▲ 56,300	—	200	0	200	▲ 56,100	

10/4は日銀予想、10/5以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、大きな変動要因は無く、無担保コールO/N物加重平均レートは▲0.02%前後になると予想する。レポ市場は、GC T/Nは、依然オファーサイド投資家の資金調達姿勢が続くと見込まれることから、▲0.085～▲0.07%程度での推移が予想される。短国市場は、7日に6M物、8日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、5日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、四半期明けとなり、市場残高の回復の勢いに注目が集まる。

主要なイベントは、海外では8日に9月の米雇用統計が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。